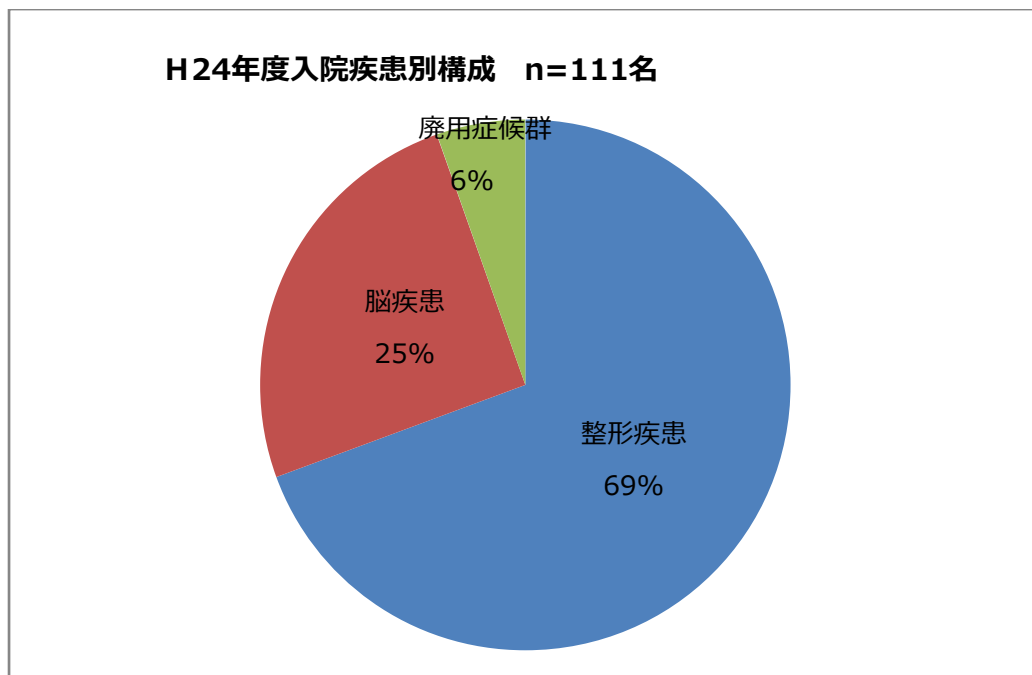


H24 年度 回復期病棟実績

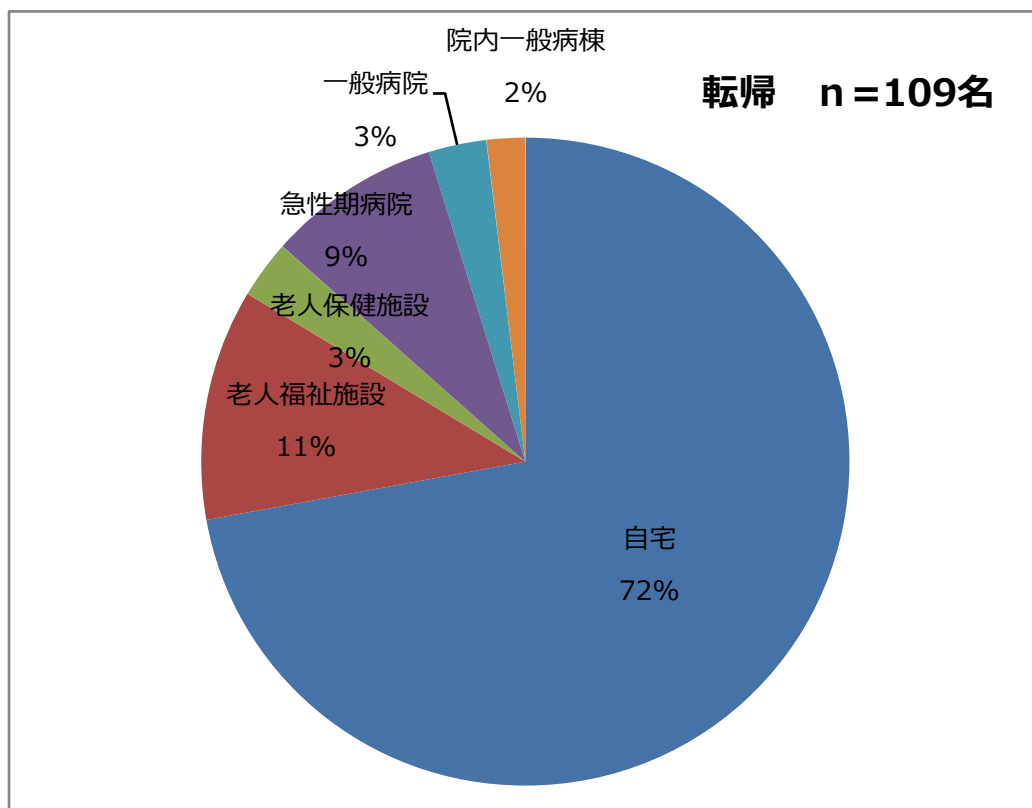


平成 24 年度に入院された患者様（111 名）の疾患別構成を表しています。

平均年齢 76.3 歳 重症患者割合 26% 重症患者回復率 42.9%

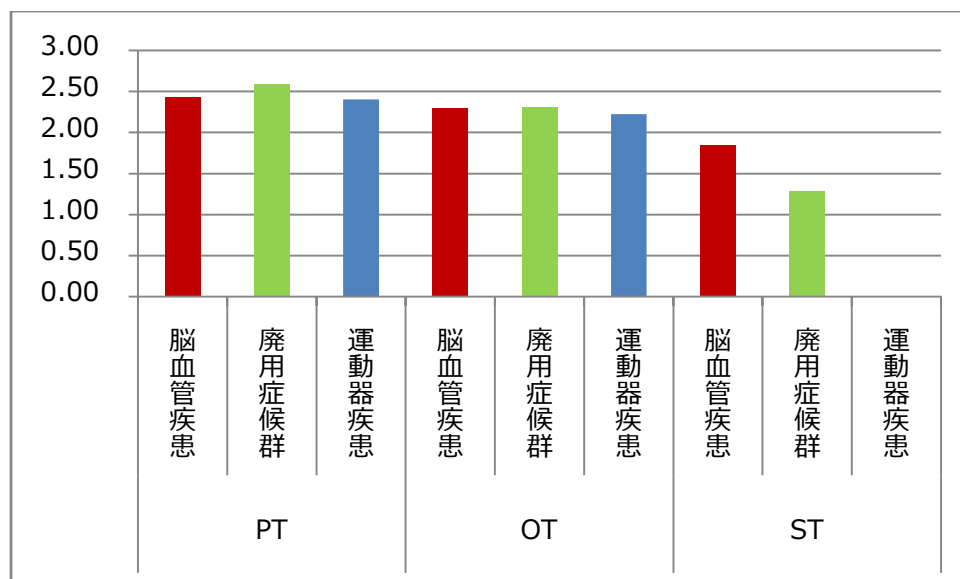
重症患者：日常生活機能評価で 10 点以上の方

重症患者回復率：重症患者のうち 3 点以上回復した割合



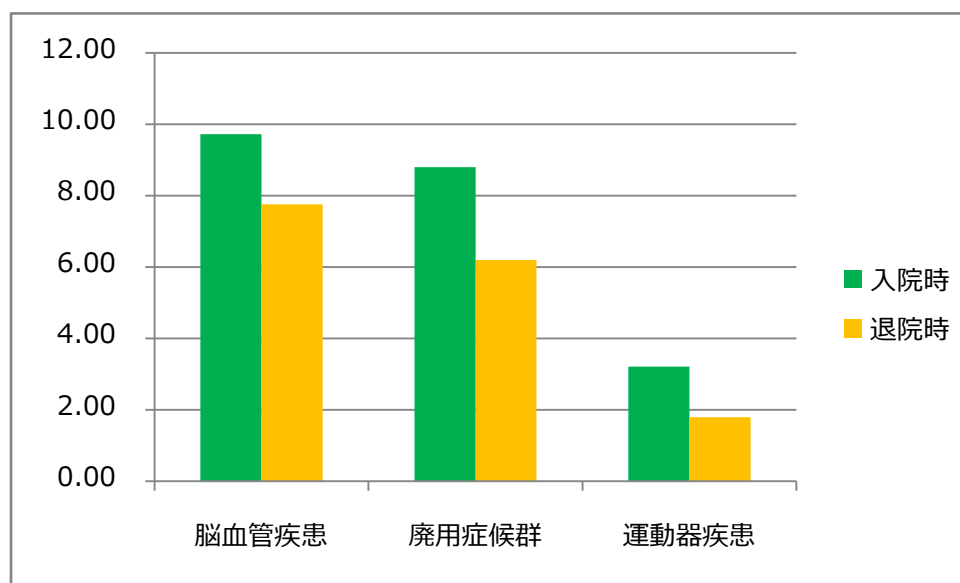
ここでは当院回復期病棟に入院された患者様（109 名）が退院後にどこへ移られたのかを表しています。72%の方が自宅での生活を迎えることが出来る様になり、11%の方が老人福祉施設、3%の方が老人保健施設に移られております。院内一般病棟や急性期病院に移られた方は状態の急変などによるものです。

リハビリテーション科 平均単位数



当院回復期病棟における患者様 1 人あたり各セラピストが実施している単位数となります。理学療法士（以下 P T）・作業療法士（以下 O T）・言語聴覚士（以下 S T）は最低でも 2 単位以上（40 分以上）の訓練を実施しております。S T に関しては平成 24 年度の人員が 1 名のみでしたので P T・O T よりも平均単位数が少ない結果となりました。また、S T の運動器疾患に関しては S T 対象疾患とはなりませんので訓練を実施しておりません。

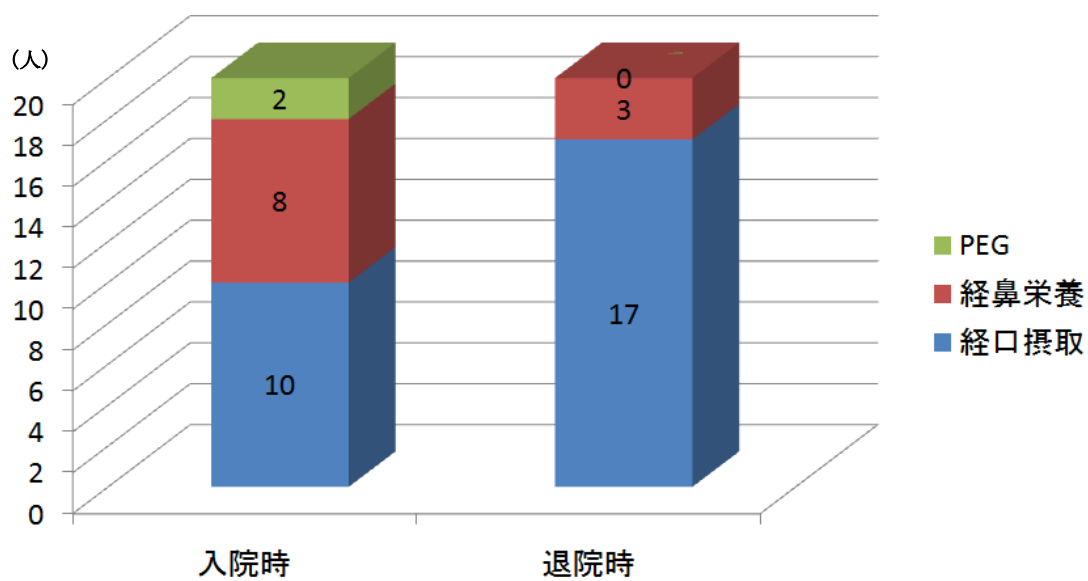
日常生活機能評価 平均改善度



日常生活機能評価：日常生活での自立度や介護度を各動作において点数に表したもので 19 点満点から点数が低いほど介助量が少なく自立度が高いという評価です。

脳血管疾患では 9.72 → 7.76 点、廃用症候群では 8.80 → 6.20 点、運動器疾患では 3.21 → 1.79 点といずれの疾患においても入院時よりも退院時には点数が低く自立度が高くなっております。

嚥下障害患者様 栄養摂取状況の変化



嚥下障害の患者様に対して言語聴覚士が訓練を実施し、入院時にはPEG（胃瘻）であった方も退院時にはすべて経口摂取に変わり、特に経口摂取の質の向上（摂取量の増加やムセの消失等）が認められております。